



ありがとう。

あなたへ



高倉 健 / 田中裕子 佐藤浩市 草薙 剛 余 貴美子 綾瀬はるか 三浦貴大・大滝秀治 長塚京三 原田美枝子 浅野忠信/ビートたけし
 監督:高倉康男 脚本:青島 武 音楽:林祐介 企画:市古聖智・林淳一郎 製作:市川南・平城隆司・服部 洋・見城 徹・山本晋也・岩本孝一・富木田道臣・宮坂 学・吉川英作・笹原哲朗・橋本 実・中井靖治 共同製作:佐々木康夫
 村田正敏・河合 隆・横山哲夫・武蔵 徹・島倉 正・大辻 茂 古田栄昭・伊藤裕造・前原晃昭・渡辺興二郎・加藤宏一郎 プロデューサー:佐藤善宏・前田光治・小久保利己・進藤淳一 撮影:林淳一郎 美術:矢内京子
 録音:本田 孜 照明:中村裕樹 編集:菊池純一 助監督:宮村敏正 VFX:ルビイ・立石 勝 装飾:鈴木高正 音響効果:佐々木英世 スクリプター:阿保知香子 音楽:カネサキ和洋 加勢:統括:金澤清美 アシスト:カネサキ和洋 藤原恵美子
 ライン:カネサキ和洋 加勢:統括:山田健一 小説「あなたへ」森沢明夫(文冬舎文庫) 製作:加勢:統括:東宝映画 制作協力:ブックス 配給:東宝

8月25日(土)ROADSHOW

劇場内での映画の
 撮影・録音は犯罪です
 www.eigaikan.org
 0120-550098

www.anatae.jp

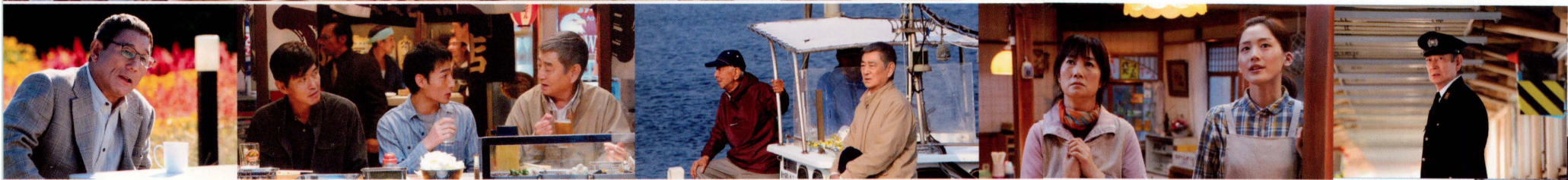
人は、いつも
伝えきれない
想いを重ねて、
一期一会の旅を
続けている。

妻の故郷への旅。多くの人々との出会い。
そこには妻の本当の願いがありました。

北陸のある刑務所の指導技官・倉島英二のもとに、ある日、亡き妻・洋子が残した2枚の絵手紙が届く。そこには、一羽のスズメの絵とともに「故郷の海を訪れ、散骨して欲しい」との想いが記されていた。そして、もう1枚は、洋子の故郷・長崎県平戸市の郵便局への「局留め郵便」だった。その受け取り期限まで、あと十日。

妻はなぜ生前その想いを伝えてくれなかったのか…。妻の真意を知るため、彼女の故郷を訪れることを心に決める。妻の故郷を目指すなかで出会う多くの人々。彼らと心を通わせ、彼らの家族や夫婦の悩みや想いに触れていくうちに蘇る、洋子との心温かくも何気ない日常の記憶の数々。さまざまな人生に触れ、さまざまな想いを胸に目的の地に辿り着いた英二は、遺言に従い散骨する。そのとき、彼に届いた妻の本当の想いとは――。

あなたの大切な想い
あなたの大切な人に
届いていますか――



想いを紡ぐ数々の言葉――

「一度、その海を見ておきたいんだよ。」

〔倉島英二 高倉健〕

「こんな物を置いて、黙っていつもりだったんですか。」

〔塚本和夫 長塚京三〕

「散骨、無事にすむといいね。」

〔塚本久美子 原田美枝子〕

「お互い気を遣って暮らしてきたんだなって……。」

〔倉島洋子 田中裕子〕

「放浪と旅の違いは、帰るところがあるかないかです。」

〔杉野輝夫 ビートたけし〕



「倉島さん、寂しそうな顔してたから……。」

〔田宮裕司 草野剛〕

「そういうものを、引き受ける覚悟がないんなら、

こんな暮らしは辞めた方がいい。」

〔南原慎二 佐藤浩市〕

「俺ね、奈緒子ば幸せにしてやりたかですよ。」

〔大浦卓也 三浦貴大〕

「薄香の漁師は薄情だって言われるけん！」

〔濱崎奈緒子 綾瀬はるか〕

「久しぶりに、きれいな海を見た。」

〔大浦吉郎 大浦秀治〕

「夫婦やけて、相手のことが、

全部は分かりはしません。」

〔濱崎多恵子 余貴美子〕

「女房にとって、自分は何だったのだろう。」

〔倉島英二 高倉健〕